

富士の民話 あれこれ

善光島の

キツネ

善光島（今の荒田島二丁目付近）のお宮さん（八幡神社）には、昔、キツネが出たという言い伝えがありました。
今回は、この善光島のキツネにまつわる話を紹介します。

善光島の八幡神社（十月十七日のお祭りより）



大正の初めころにはこのお宮さんの付近にキツネが出たという話を、親から聞いたことがあります。私たちが子供のころはこのあたりは一面田んぼで、お宮さん以外にあまり人家はありませんでした。昼間はよくお宮さんの木に登ったりして遊びましたが、夜は怖くて近づけませんでしたが、このお宮さんでは、明治のころから一月・六月・十月の年に三回、お祭りを行っています。戦前までは、たくさんの子供たちが集まってきたり、おこもりといって一晩じゆう火をたいてみんなで話をしたりとにぎやかでしたね。近ごろは少し寂しくなりましたが、今でも荒田島二丁目の三組合が、一年交代で当番になってお祭りを開催し、地域のきずなを深めています。

昔の津田村は、家は飛び飛びで道は狭く、それに木が生い茂っていました。吉原一丁目を寺町と言ったところ、津田村の百姓がお祭りでおすしをつくったので、重箱に入れて寺町の親戚へ持っていくとしたら、善光島のお宮さんのところへ来ると、なぜか急に重箱が重くなったり、軽くなったりしました。
善光島のお宮さんは、木が生い茂った森で、昔からキツネが出るといいうわさでした。「はてな。キツネのしわざかな」と思いましたが、気味が悪いので急いで寺町の家に行きました。
寺町の家に着いて重箱を開けると、油揚げのおすしが一つもありません。キツネに取られてしまったのでした。
夜になってお宮さんの前を通ると、ごちそうになったお礼のつもりか、キツネたちがちようちんに火をつけて、お宮さんの周りを昼間のように明るくしていたそうです。



稲垣 紂さん（荒田島町）[右]
近藤武雄さん（伝法）[中央]
大箸 進さん（伝法）[左]



こちら編集室

毎月、富士山と〇〇というテーマを決めてスライドで保存用の写真を撮っている。先月のテーマは「富士山とカキ」。道路や電線が目立たなく、カキの実がたわわに実り、背景に富士山がきれいに写る場所。市内北部で育った私は至るところにそんな場所があると思っ

ていたが、探してみると…。広い畑の中に当然のようにあったカキの木は、もう見当たらなくなっていた。昔ながらの畑風景はなくなり、カキは、買って食べるものに変身。“渋ガキ”の味も懐かしい。皆さん、「富士山とカキ」撮影ポイントをぜひ教えてください。

人口 238,471人（前月比+42）
男 118,677人（+5）
女 119,794人（+37）
世帯 79,043世帯（+45）10月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

